

受講ガイド

令和7年度登録用



新入生用

東京都立世田谷泉高等学校

1 教科の特徴

日本語を正しく表現し、理解する力を育てるのが『国語』の授業です。

1 年次必履修科目の「現代の国語」は、主に評論文を扱います。2 年次必修科目の「言語文化」は古典（古文・漢文）と小説を扱います。「話す・聞く」「書く」「読む」ことの総合的な学習を通して、高校生としての基本的な読解力、表現力、語彙力を身に付けることを目標として学びます。年度初めのテストで、習熟度別クラス（甲・乙）を編成します。

選択科目は 5 講座を設置しています。普通科目の「現代文演習」は現代文のみ、「古典演習」は古文・漢文のみを教材とし、必履修科目の発展科目として読解力を養うことを中心に学びます。表現系列の「日本語コミュニケーション実践」「演劇」では、言語表現や身体表現を通じた自己表現と自己及び他者理解について学んでいきます。「作文演習」では、語句の知識や文章力、表現力を養います。

2 受講のすすめ

下記表を参考にして、各自の興味や関心、進路などに合わせて計画的に選択科目を履修していくとよいでしょう。

	1 年次	2 年次	3 年次以降
必修	現代の国語	言語文化	
選択		作文演習	
選択		日本語コミュニケーション実践（日コミ）	
選択		演劇	
選択			現代文演習
選択			古典演習

3 注意事項

どの科目も積極的な授業への取り組みが重視されることはいうまでもありません。振り返りテスト・小テスト・提出物（ワークシート、演習プリント、ノート、レポート、長期休業期間中の課題など）・出席状況・授業態度などの学習の積み重ねを総合的に評価します。「日本語コミュニケーション実践」「演劇」では、特に継続的な出席が不可欠です。

4 設置科目と登録条件

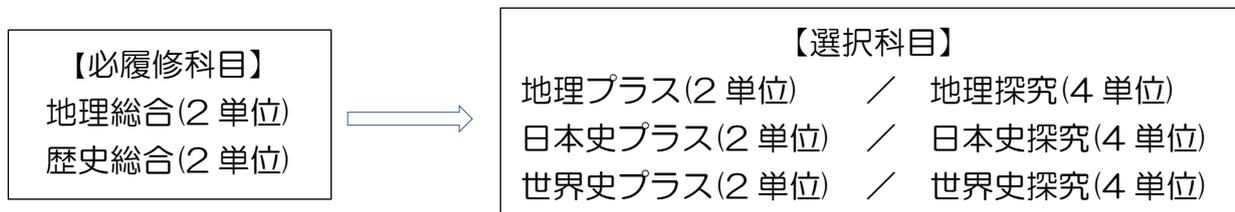
科目名	科目紹介	登録条件
現代の国語	主に評論文・随筆の学習。	1 年次必履修科目
言語文化	主に古典（漢文・古文）・小説の学習。	2 年次必履修科目
作文演習	語句の知識や文章力、表現力を養う。	2 年次生以上であること
日コミ	言語表現・スピーチ力を養う。	2 年次生以上であること
演劇	身体表現・自己表現力を養う。	2 年次生以上であること
現代文演習	現代文の読解力を養う。	3 年次生以上であること
古典演習	古典の読解力を養う。	3 年次生以上であること

※ 5・6 年次生で国語総合を履修していない場合は、現代の国語及び言語文化を登録すること。

※ 5・6 年次生で国語総合を履修している場合は、現代の国語及び言語文化は登録できません。

1 教科の特徴

地理歴史科は、現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史を学ぶ教科です。社会のさまざまなことからの空間的なひろがりや時間的な経緯などについて知り、空間や時間に関することについて考えていく力を身につけ、近い将来の自分の生き方や生活について考えることを目指します。必履修科目 2 つ、選択科目 6 つで構成され、授業を履修する順番が決まっています。



2 受講のすすめ

「地理総合」は 1 年次に全員学びます。地理を深く学びたい人は 2 年次以上で「地理探究」を履修してください。「歴史総合」は 2 年次で原則学びますが、「日本史探究」「世界史探究」を早く履修したい人のために 1 年次限定の「歴史総合」を設置しました。歴史を深く学びたい人は、1 年次に「歴史総合」を登録し、2 年次から「日本史探究」や「世界史探究」を登録してください。

3 注意事項

「地理総合」2 単位と「歴史総合」2 単位を卒業までに履修しなければなりません。

※大学進学を考えている人は大学によって「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」を履修していることが求められる場合もありますので、気をつけてください。探究科目は 4 単位のため、週に 2 日授業があります。他に取りたい科目と重なることもありえますので、計画的に登録してください。

※次年度より、新たに 2 単位の選択科目「地理プラス」「日本史プラス」「世界史プラス」を設置します。受験科目では利用しないが、地歴をさらに学びたい人向けです。

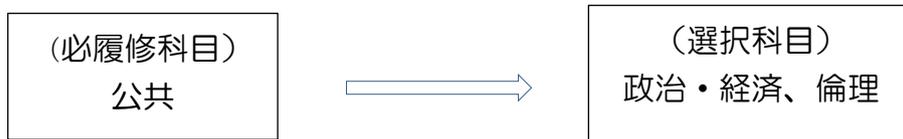
4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
地理総合	様々な人々のくらしや SDGs について	1 年次必履修科目
歴史総合	近現代を中心に世界と日本についての歴史を学習	2 年次必履修科目(※探究科目を 2 年次で選択したい場合は 1 年次で登録可)
地理探究	現代世界の系統地理を中心に学習・探究	「地理総合」を履修していること
日本史探究	日本史の通史学習・探究	「歴史総合」を履修していること
世界史探究	世界史の通史学習・探究	同プラス科目との同時登録は不可
地理プラス	日本地理(地形・気候・産業・文化)	2 年次以上対象講座 「地理 A」を履修した者は不可
日本史プラス	日本の近代以前(古代～)の歴史を学習	2 年次以上対象講座
世界史プラス	世界の近代以前(古代～)の歴史を学習	同探究科目との同時登録は不可 同演習科目を履修した者は不可

1 教科の特徴

より良い社会、より良い生き方とはなにか、を考えるために、現代社会の特徴や課題、生き方を支える様々な思想や宗教について学習する教科が公民です。

必履修科目 1 つ、選択科目 2 つで構成され、授業を履修する順番が決まっています。



必履修科目「公共」を履修した後、選択科目「政治・経済」「倫理」を履修できます。

2 受講のすすめ

必履修科目「公共」は、公共的な空間に生きる私たちに必要な、政治や経済などの基礎的な知識や見方・考え方を学びます。公共を履修すると、より詳しく学習できる選択科目「政治・経済」「倫理」を履修できます。

基本的に「公共」は 2 年次の必履修科目なので、選択科目の 2 科目は 3 年次にならないと受講できません。

もっと早くに政治や経済、思想や哲学をより深く知ってみたい…！

そのような生徒のために、1 年次の希望者向け「公共」を設置しました。人数は 30 人×3 講座と全員を受け入れる枠はありませんが、公共を先取りして政治・経済や倫理を 2 年次以降に受講できるようにすると、受講登録時の選択肢が広がるメリットもあるので、ぜひ 1 年次に公共を履修してみてください。

3 注意事項

- 「公共」2 単位を卒業までに履修しなければなりません。
- 「公共」を履修しないと「政治・経済」「倫理」は履修できません。
- 「公共」と「政治・経済」「倫理」を同年度に履修できません。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
公共	公共的な空間に生きる私たちに必要な、政治や経済、宗教や哲学について、基本的なことを幅広く学びます。	2 年次必履修科目 (※「政治・経済」「倫理」を 2 年次で 選択したい場合は 1 年次で登録可能)
政治・経済	政治制度の特徴やその成り立ち、経済理論や経済政策などをさらに深く学びます。	「公共」を履修していること。
倫理	青年期の思想や宗教、哲学などをさらに深く学びます。	

1 教科の特徴

数学は難しいとよく言われます。皆さんもそのように感じたことが多いことでしょう。数学には、数学的現象の世界を簡単な原理で表現する、例えば、今まで解決するために長時間要していた問題を、短時間に解決することがあります。簡単な例として、たし算しか知らない人に、2 を 345 回たせ、と言えは答えを出すまでに相当な時間がかかることでしょう。しかし、かけ算を知っている者にとっては、あっという間に答えを得ることができます。数学の難しさとは、新しい考え方や方法を身につけ、使いこなせるようになるところにあります。

数学の学習を通して、今までの知識を確実に使えるようにし、困難な問題へも試行錯誤しながら果敢に挑み続ける姿勢を身につけてほしいと考えます。

2 受講のすすめ

数学科の上級科目の講座については登録条件があります。

下記の履修例を参考に、1 年次から進路を考えて計画的に登録するようにしましょう。

【履修例】

- 理系大学への進学希望者：「数学Ⅰ」「数学A」→「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」→「数学Ⅲ」
- 看護系への進学希望者：「数学Ⅰ」→「数学A」
- 受験では必要ない生徒：「数学Ⅰ」、「生活の中の数学」
- 数学が苦手な生徒：「数学Ⅰ」の登録時に「やさしい数楽」

3 注意事項

- ① 「やさしい数楽」は数学が苦手な生徒向けの科目、「**数学A**」は**1 年次から登録できる上級科目**（ただし、「**数学A**」と**同年度に受講する「数学Ⅰ」**の習熟度講座は**通年で発展クラス**となる）です。
「やさしい数楽」と「数学A」の同時登録は特別な事情がない限り控えてください。
- ② 「**数学A**」、「**数学Ⅱ**」、「**数学B**」、「**数学Ⅲ**」、「**数学C**」を登録希望する人は、必ず数学科に相談に来てください。
- ③ 「**数学Ⅰ(再)**」は**ありません**。再登録希望者は、**1 年次生と一緒に「数学Ⅰ」を登録**します。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
数学Ⅰ	1 年次生および再登録者（「数学Ⅰ」未履修、または未修得）を対象とする必履修科目	上記の注意事項①参照（「数学A」の登録者）
数学A	「数学Ⅰ」で扱わない内容を学習する。	特になし
数学Ⅱ	「数学Ⅰ」の次の段階を学習する。	「数学Ⅰ」の履修
数学B	「数学Ⅱ」を学びながら、または学び終えた段階による学習をする。	「数学Ⅱ」の履修、または、同年度登録
数学Ⅲ	「数学Ⅱ」の次の段階を学習する。	「数学Ⅱ」の履修
数学C	「数学Ⅱ」を学びながら、または学び終えた段階による学習をする。	「数学Ⅱ」の履修、または、同年度登録
やさしい数楽	数学Ⅰの基礎クラスの内容をやさしく学ぶ。	1 年次限定
生活の中の数学	数学に親しむことができる題材を扱う。	特になし

受験する学校などによって必要な科目が異なりますので、十分考えて受講しましょう。進路に向けて受講科目に迷った時は、必ず数学科に相談してから受講しましょう。

1 教科の特徴

いろいろな実験や観察を基に、身のまわりのことやその背景を深く、考えていきます。

2 受講のすすめ

最初に1～2年次で、「科学と人間生活」または「生物基礎」の必履修科目を履修します。

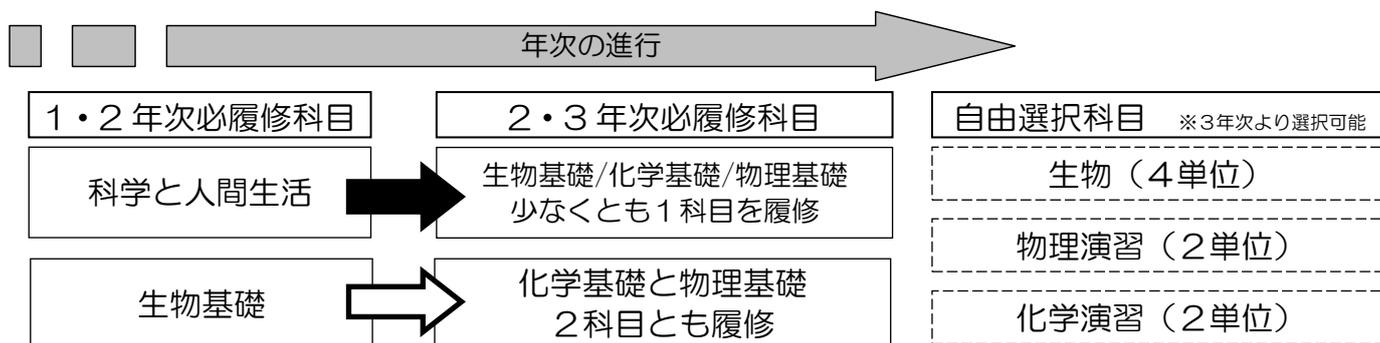
① 最初に「科学と人間生活」を履修した場合

翌年度以降、「生物基礎」「化学基礎」「物理基礎」の必履修科目のうち1科目を履修する必要があります。

② 最初に「生物基礎」を履修した場合

翌年度以降に「化学基礎」と「物理基礎」の必履修科目を2科目とも履修する必要があります。

基本的には①の「科学と人間生活+基礎科目1つ」の受講をおすすめします。「科学と人間生活」は、生物・化学・物理・地学の4つの分野の幅広い内容を、やさしく学んでいくことのできる科目です。理系の大学への進学を考えている人には②の「生物基礎+化学基礎+物理基礎（基礎科目3つ）」の受講をおすすめします。また、3年次以降に各自の興味や関心、進路などに合わせて、選択科目「生物」、「物理演習」、「化学演習」が登録できます。下の図に、年次の進行に合わせた履修順序を示しました。



3 注意事項

最初に「生物基礎」を履修した場合、翌年度以降に「科学と人間生活」の受講はできません。「科学と人間生活」を選択した場合、履修後に基礎科目を2～3科目履修することも可能です。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目の特性	登録条件
科学と人間生活 (科人)	4分野を広くやさしく学習します	生物基礎を履修していない生徒
生物基礎	グラフ・図などを読みとく力が必要	特になし（※上の履修順序の図に従うこと）
化学基礎	暗記と計算が両方重要	科人または生物基礎を既に履修した生徒
物理基礎	小数・分数を含む計算力が必要	科人または生物基礎を既に履修した生徒
生物	生物学のより高度な内容を学ぶ	3年次以上で生物基礎を既に修得した生徒
物理演習	物理基礎の内容の発展	3年次以上で物理基礎を既に修得した生徒
化学演習	化学基礎の内容の発展	3年次以上で化学基礎を既に修得した生徒

※注意※ 自由選択科目の受講を考えている生徒は、理科の教員に必ず相談すること。

1 教科の特徴

皆さん！健康ですか？スポーツでいい汗をかいていますか？でもね、皆さん、健康って、何でしょうか？スポーツでいい汗をかかって、どういうことでしょうか？

「保健体育」の授業は、「保健」と「体育」から成り立っています。先ほどのような質問に答えていくために「保健」では、健康や安全に対する基礎的・基本的な内容を学習し、「体育」では生涯にわたってスポーツを楽しむために必要な知識と技術を学習します。そして、この2つの科目を学習することにより、生涯にわたって明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てていきます。そして、その結果皆さんには先ほどの疑問に答えを出してもらえることと思います。それが、「保健体育」の究極の課題です。

2 受講のすすめ

- ・「保健体育」の必履修科目は、受講する年次が決まっています。これは、継続的・計画的に行う必要があるためです。

3 注意事項

- ・「保健Ⅰ」と「体育Ⅰ」は1年次の必履修科目です。
- ・「保健Ⅱ」と「体育Ⅱ」は2年次の必履修科目です。
- ・「体育Ⅲ」は3年次の必履修科目です。
- ・「保健」はⅠⅡ、「体育」は、ⅠⅡⅢの順番に必ず受講してください。
例) 体育Ⅰを履修(登録)していない人は体育Ⅱを登録することはできません。
- ・選択科目のダンス、ニュースポーツはどの年次でも受講できます。スポーツ科学は1年次では登録できません。また、「体育Ⅰ」を再登録する生徒は、原則「スポーツ科学」を登録することができません。(特別な理由がある場合は要相談)

4 登録できる科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	1年次では基礎体力をつけ、2年次以降では更なる運動技能の向上を目指して学習をします。	Ⅰは1年次、Ⅱは2年次、Ⅲは3年次で登録をします。
保健Ⅰ・Ⅱ	保健Ⅰでは『現代社会と健康』、保健Ⅱでは『生涯を通じる健康』を学びます。	Ⅰは1年次、Ⅱは2年次で登録します。
ダンス	初心者でもOK。身体の使い方や動き方、作品の創作方法を学びます。	1年次から登録可能です
ニュースポーツ	近代において日本に紹介されたスポーツや日本で新しく開発されたスポーツを学びます。	
スポーツ科学	「運動の合理的な実践」と「健康の増進と体力の向上」に活用することのできる資質や能力を向上させます。	1年次では登録不可、2年次以降登録可能です

※保健ⅠⅡは必履修科目のため、再履修講座が設けられています。詳しくは保体科教員まで。

1 教科の特徴

表現力を高め、コミュニケーション能力を伸ばし、自分の感性を磨く教科です。他校と比べ多くの講座があります。

実技科目です。出席をして、授業中に作品制作をしっかりと行うことが必要です。

2 受講のすすめ



・・・選択必履修科目



・・・選択科目

3 注意事項

「音楽 I」・「美術 I」・「工芸 I」・「書道 I」（必履修科目）の中から、卒業までに必ず1つ履修してください。（音楽 I の説明は次ページ参照）

費用が多くかかるものもあります。受講を希望する前に講座の教材費、準備品などを確認してください。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
美術 II	美術 I の発展科目です。表現力や技術の向上を目指します。	美術 I の履修が必要。2年次以降
工芸 II	工芸 I の発展科目です。習作や演習を重ね実際の制作を行います。	工芸 I の履修が必要。2年次以降
発展デザイン	「デザイン基礎」よりもさらに専門的にデザインを学んでいきます。	2年次以降。また、デザイン基礎を履修してからの受講を推奨。
陶芸	陶土を使って制作し、手作りの良さや使う楽しさを学びます。	2年次以降
彫金	金属を素材とした工芸作品の制作を通して金属加工について学びます。	2年次以降
写真	カメラを使った撮影の基礎基本、表現について学びます。	2年次以降
メディア表現	写真を使用したアニメーション制作や写真の表現について学びます。	2年次以降

1 教科の特徴

音楽の授業では、声楽、器楽、鑑賞の活動を行う中で、楽曲の構成や歴史・文化との関わり等へと視野を広げ、音楽を多面的に捉える力を養います。より深く音楽を感受できるよう、知識を深め、技術を磨き、自分自身の表現を探究していきます。

2 受講のすすめ

- <音楽Ⅰ> 音楽全般（歌唱、器楽、鑑賞）に興味のある人向けの授業です。
- <歌唱> 歌うこと（クラシックが中心）が好きな人向けの授業です。
- <音楽演習> 楽譜を読むようにするための学習です。
進路に保育を希望している人には履修を勧めます。
- <音楽Ⅱ> 音楽Ⅰと同じように音楽全般を取り扱います。

3 注意事項

- ◆「音楽Ⅰ」・「美術Ⅰ」・「工芸Ⅰ」・「書道Ⅰ」（必履修科目）の中から、卒業までに必ず 1 つ履修してください。（「美術Ⅰ」・「工芸Ⅰ」・「書道Ⅰ」の説明は前ページを参照）
- ◆<歌唱> では J-POP やはやりの曲は扱いません。
- ◆<音楽演習> は「継続して取り組むこと」が必要です。学習内容をよく把握し、自分自身の適性をしっかり考えた上で選択してください。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
音楽Ⅰ	教科書を用いて、歌唱やギター演奏を中心に鑑賞等も含め、幅広く学びます。	1 年次必履修科目
歌唱	歌曲、オペラ楽曲等、様々な楽曲を扱います。1 人ずつ歌うこともあります。	なし ※
音楽Ⅱ	<音楽Ⅰ> の発展的な内容として、幅広く学びます。器楽では、三味線とアルトリコーダーの演奏に取り組みます。	<音楽Ⅰ> を履修していること
音楽演習	基礎的な音楽理論の学習をします。また、キーボード演習によって学習を深めます。	なし ※

※5・6年次の受講上の注意点

- ・「歌唱」は、過去に「声楽」を修得した人は登録できない。
- ・「音楽演習」は、過去に「ソルフェージュ」を修得した人は登録できない。

1 教科の特徴

外国語の学習は、新しい楽器の演奏を修得するようなものです。最初は基本的な音を出すことも難しいのですが、練習を重ねることで徐々に複雑なメロディを演奏できるようになります。同じように、簡単なフレーズや単語から始まり、繰り返し練習することで、会話や文章がスムーズにできるようになるのです。

2 受講のすすめ

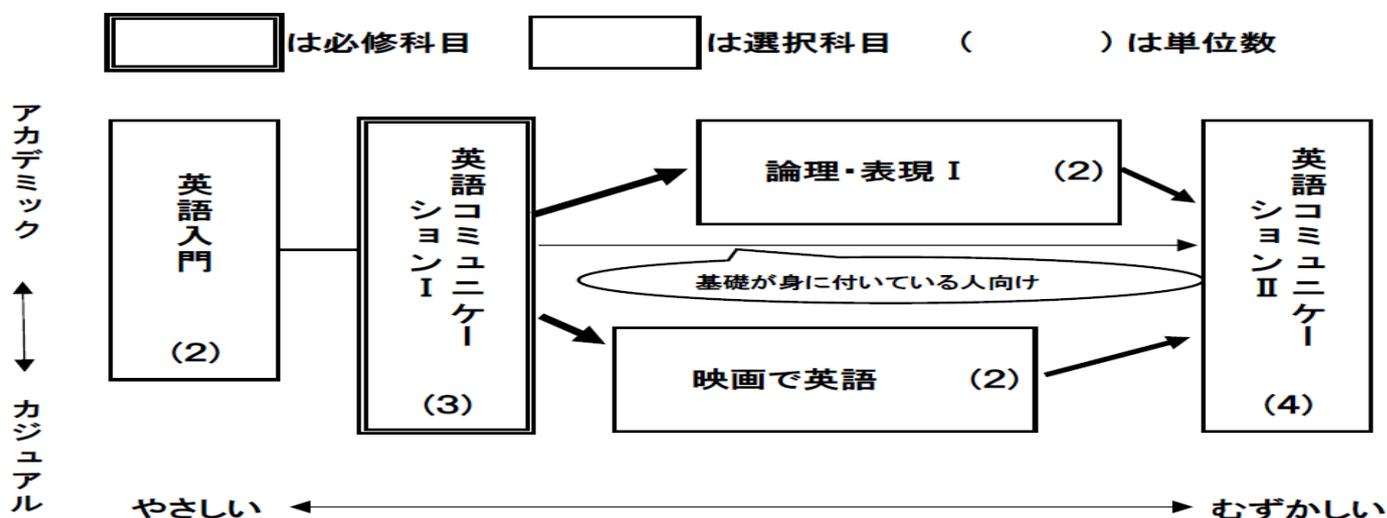
講座によって難易度に差があります。下の概略図を参考にして、自分に合った無理のない取り方をしてください。「英語コミュニケーションⅠ」の履修者は「論理・表現Ⅰ」を履修した後に「英語コミュニケーションⅡ」を受講すると無理なく学修が進められます。

3 注意事項

授業では発言が求められる場面や、ペアまたはグループで活動を行う場合があります。先生やクラスメイトと積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度で臨んでください。

4 設置科目と登録条件

英語科科目概略図



注意：英語コミュニケーションⅠ・Ⅱはコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱの代替科目

科目名	科目紹介	登録条件
英語コミュニケーションⅠ	英語の「聞く」「読む」「話す」「書く」のすべての分野で、基礎的な能力を身につけることをめざします。	1年次必履修科目
英語入門	英文法の基礎的な能力を養うことを目標としています。	1年次限定
論理・表現Ⅰ	高校英語に必要な文法事項の学習、さらに英語会話の基礎的な能力を養うことを目標としています。授業内で発言する場面やペア・グループでの活動、宿題等もあります。	必履修科目「英語コミュニケーションⅠ」を履修していることが望ましい。2・3・4年次限定（新カリ）。5・6年次（旧カリ）は不可。
英語コミュニケーションⅡ	英語の総合的な力をさらに深めることをめざします。大学受験希望者を対象としています。授業内で発言する場面やペア・グループでの活動、宿題等もあります。	必履修科目「英語コミュニケーションⅠ」または「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修していること。2年次以上限定
映画で英語	映画をもとに、リスニングの力と文法・語法の知識を強化する科目です。	必履修科目「英語コミュニケーションⅠ」または「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修していることが望ましい。2年次以上限定

1 教科の特徴

私たちがより豊かに生きるために必要な知識や技術を、授業を通して考えながら学び、身につけていく教科です。学習内容は科目によって、身近な衣食住に関する内容から地球環境や障がいに関する内容まで多岐にわたります。理論だけでなく、実験・実習・調査・演習・実技など総合的に学習していきます。

社会福祉の科目「社会福祉」「手話」「点字」は特別専門講師の先生による授業です。現実の社会を知り、自分と違う価値観に触れ、誰もが幸せに生きることについて考える科目です。

2 受講のすすめ

- ◆必履修科目：「家庭基礎」は、2年次で履修します。
- ◆選択科目は：2年次以降に受講することができます。各自の進路や興味や関心などに合わせて決めてください。
- ◆検定：家庭科では以下の検定を校内で行っています。
(対応科目の修得者及び現在受講登録をしている人が対象です。)
 - ・全国高等学校家庭科技術検定（食物）…対応科目「食物Ⅰ」または「食物Ⅱ」
 - ・全国高等学校家庭科技術検定（被服）…対応科目「被服」

3 注意事項

- ・材料費や道具の準備が必要な講座が多くあります。
- ・少人数でのグループ実習を多く行う科目もあります。協力して取り組みましょう。
- ・各科目の作品は学校で仕上げるのが基本です。持ち帰っての作業はできません。

4 設置科目と登録条件

* 2年次以降に登録できる科目

科目名	科目紹介
家庭基礎	【必履修科目】食物・被服・住生活・保育・消費者・家族・高齢者の7分野について学習します。
手芸	洋裁の基礎、材料の取り扱い、各種手芸の技法を学習します。
被服	ミシンの使い方を覚え、洋裁の基礎と和裁の基礎を学習します。甚平を完成させます。
食物Ⅰ	実習を通して、食品の特性や調理操作について、基礎を学習します。
食物Ⅱ	実習や調べ学習を通して、調理操作や食文化について学習します。
保育	実習等を通して乳幼児の発達や保育に関する知識と技術について学習します。
住生活	日本や世界の住文化、インテリア、快適な住まいについて学習します。
手話	聴覚障がい者を取り巻く状況について理解を深めると共に、実技を中心に指文字や手話の学習をします。
点字	視覚障がい者を取り巻く状況について理解を深めると共に、点字の読み書きに関するルールや仕組みを学習し、絵本の点訳を行います。
社会福祉	障がい者、高齢者について、基本的な知識と基礎的な介護技術を学習します。

1 教科の特徴

これからの時代、生活の中で欠くことのできないコンピュータ、情報化社会で生きるみなさんに必要な「基礎的な知識」を学びます。

情報科は、「情報Ⅰ」と「情報の基礎」の2科目です。情報Ⅰは、必履修科目で全員が学びます。情報の基礎は、嫌いなコンピュータが好きになれるよう、基礎の基礎を学ぶ科目です。

2 受講のすすめ

○必履修科目 「情報Ⅰ」について

必履修科目であるため、全員が必ず受講することになります。授業は、座学と実習を交えながら進めます。

○選択科目「情報の基礎」について

コンピュータが苦手、キーボードなんて見たくない、ローマ字入力が出来ない等、コンピュータに苦手意識を持っている人は、是非、選択してください。初歩の初歩から学習を始めます。「継続は力なり」です。頑張りましょう。

- コンピュータを使用した実習が中心の科目です。
- ローマ字入力の練習を行います。
- タイピング練習を通年で行います。
- 情報Ⅰでは扱わない、各アプリケーション（文書作成、表計算、プレゼンテーション）の使用方法を基礎的な学習から始めます。
- 同じ課題を反復練習しながら技術の上達を目指します。

3 注意事項

「情報の基礎」について

- パソコンが好きだから！という人を対象とした科目ではありません。 苦手克服が目的の「基礎科目」であるため、初歩的な練習を繰り返し行います。

「評価」について（2科目共通）

- 実習を伴う教科である為、日々の出席状況、授業毎の振り返りテスト、成果物、単元テスト（年5回）、ノート等提出状況、授業の取り組み、単元毎の確認テストなど、総合的に評価します。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
情報Ⅰ	【必履修科目】 コミュニケーション、デザイン、プログラミング、 情報通信等、基礎的な内容を学習します。	1年次必履修科目
情報Ⅰ(再)	同上	2年次以上、再登録科目
情報の基礎	コンピュータの初歩を学ぶ	コンピュータが苦手な人

1 教科の特徴

工業科は、6講座設置しています。前身の烏山工業高校の設備・施設を引き継いでいるので、中学校での技術家庭とは違い、**本格的な機械、電気・電子・情報**について学ぶことができます。授業は、実技（実習）を中心としています。

2 受講のすすめ

工業科の科目は、科目名から内容をイメージしにくいと思いますので、迷ったら、工業科の先生に相談してください。

工業実習は、表に記載している内容について、期間を定めてローテーション（2班もしくは3班）して学習します。また、履修に順序やルールがあるので注意してください。

3 注意事項

- ・各工業実習の内容で、自分の好きな分野だけを学ぶ、という選択はできません。
- ・工業科の授業は、実技（実習）が中心です。欠席が多いと授業、作業工程が遅れ、知識も技術も身に付きません。また、**危険**を伴うので、いい加減な事はできません。
- ・工業実習の登録者は、実習服や実習帽（気持ちを引締める、事故防止）が必要になり、各自で購入をお願いしています。ただし、**不適合な作業着**での参加は認められません。受講説明会にてサンプルを確認してください。心配な場合は、購入する前に必ず相談してください。
- ・履修条件はありませんが、**ものづくりが好き**という心はもってください。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介			登録条件
	機械系	電気・電子系	情報系	
工業実習A	機械製図・木工	回路		なし
工業実習B	フライス盤・溶接		アプリ	なし
工業実習C	板金・旋盤			なし
工業実習D	自動車・旋盤			なし
CG	3D コンピュータグラフィックソフトウェアの操作方法および作品制作等			コンピュータの操作に関する知識・技術を有していること
計算・ワープロ実習	表計算処理ソフトによる計算 分掌処理ソフトによる文書作成			なし

～実習内容並びに用語解説～

- フライス盤：工作機械で刃物を回転させ、素材（金属）を削る
- 溶接：ガスやアークで金属を溶かして接合する
- 板金：金属を折り曲げたり、形を整える
- 旋盤：工作機械で回転する素材（金属）を削る
- 自動車：車の整備点検やエンジンのしくみ

人間と社会・総合・総合的な探究の時間

必登録科目2科目 必履修科目3科目

1 教科の特徴

さまざまな教科で多くの学習を積み重ねていく中、各教科を横断的・総合的な学習を行い、探究の見方や考え方を働かせ、皆さん自身のあり方や生き方を考えていく教科です。

友だちと共に調べたり考えたりして、自分の興味の幅を、さらに広げていきましょう。

2 受講のすすめ

すべての科目が「必履修科目」または「必登録科目」ですので、受講登録の際は忘れずに登録しましょう。また、登録できる年次の指定もあります。下の表を参照してください。

1年次	産業社会と人間		
2年次	人間と社会	生活実践	探究基礎
3年次	課題研究		
4年次			

3 注意事項

「人間と社会」と「生活実践」は半期受講です。クラスごとに前期と後期に分かれます。

4 設置科目と登録条件

科目名	科目紹介	登録条件
産業社会と人間	自分の生き方や仕事・職業・進路・社会とのかかわりなどを考え、学びます。数少ないクラス単位の授業です。コミュニケーション能力を鍛えましょう。	<u>1年次の必登録科目</u>
人間と社会	道徳性を養い、判断基準（価値観）を高めることで、社会的現実にはらし、よりよい生き方を主体的に選択し行動する力を身に付けることを目標とします。	<u>2年次の必履修科目</u> 1単位科目で半期受講です。「生活実践」と併せて1年間学習します。
生活実践	日常生活における一般常識や、社会人としての基本的マナーについて、実習や演習を通して知識や技術を身に付ける科目です。	<u>2年次の必登録科目</u> 1単位科目で半期受講です。「人間と社会」と併せて1年間学習します。
探究基礎	3年次の課題研究へ向けての基礎的な科目で、自ら課題を見つけ、データを集め、考察した経過を資料にし、発表する科目です。調査方法や、自分でデータを収集する方法、資料の作り方、発表の仕方などを学んだ後、自由にテーマを設定して調査・研究を行い、発表を行います。	<u>2年次の必履修科目</u>
課題研究	系列を基にした6分野（生活班、保育福祉班、美術工芸班、音楽班、情報班、ものづくり班）に分かれ、研究活動を行う予定です。自らの研究テーマを掘り下げ、一年間活動し、研究成果を発表します。何回も考え直して、より良い研究に仕上げていく探究の学習があります。	<u>3年次必履修科目</u> 「探究基礎」の履修（または同年度登録）で登録可能。4年次以上の再登録者も登録すること。

1年次 必履修科目

【注意事項】

- 美術Ⅰ、工芸Ⅰ、書道Ⅰ、音楽Ⅰはいずれか1つを履修することで卒業条件を満たす。
- 科目名に【選択必履修】が付いている科目は「1年次での受講」か「2年次での受講」を選択することができる。理科の履修順序はP7の「理科の教科紹介」を参照。

現代の国語		単位数	2	定員	15	教材費	なし
国語	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の文章で、私たちの身近な文章や、説明文を主な教材として学習します。 ・漢字や語句、文法なども学んでいきます。 ・日本語を的確に理解したり、表現したりできる力を伸ばすことを目指します。(年度当初のテストにより、習熟度別クラスを編成します。) 					
	条 件	1年次に登録する必修修科目。					
	留 意 事 項	5年次以降の生徒で「国語総合」が未履修の場合は、この科目と「言語文化」を履修することで卒業要件を満たすこととなります。また「国語総合」を履修している場合は、この科目を履修できません。					
	必 要 な も の	ノート・筆記用具等					
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	単元ごとの振り返りテスト、授業への取り組み、漢字テスト、提出物などを総合的に判断する。					
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】漢字・語句や語彙力・文章の表記の仕方等を身につけている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】目的に応じて、的確に伝わるような論理展開の方法、言語情報の整理の仕方等を理解している。</p> <p>【学びに向かう力】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。</p>					
地理総合		単位数	2	定員	30	教材費	なし
地理歴史	学 習 内 容	<p>①地図や地理情報システムと現代世界、②国際理解と国際協力、③持続可能な地域づくりと私たちの3つが学習内容の骨子です。①では地理情報システム(GIS)が中心で地理院地図等の電子地図の活用を学びます。②では生活文化と国際理解、地球的課題と国際協力をテーマに場所と人間と自然環境との相互依存関係等について学びます。③では自然環境と防災と生活圏の調査と地域の展望を学びます。</p> <p>地図帳を活用したり、資料を読み込んだり、統計を分析したり作図も行います。</p>					
	条 件	1年次で登録する必修修科目					
	留 意 事 項	この「地理総合」を履修しないと次年度以降に「地理探究」を登録できない。					
	必 要 な も の	教科書、地図帳、ノート、色鉛筆など。					
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	単元ごとのテスト、授業への取り組み、課題や提出物などを総合的に判断します。					
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】地理の基礎知識を正しく理解できる。地図の見方考え方を身につけたか、そしてそれを実際の生活の場面に活用できる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】地理的見方・考え方をはたらかせて、現代世界の問題についての考えを示すことができる。</p> <p>【学びに向かう力】地理的事象についての関心を高めることができている。修得した地理的技能をもとに現代世界の空間に関わる問題について自分なりの考えを示そうとしている。</p>					
【選択必修修】歴史総合		単位数	2	定員	30	教材費	なし
地理歴史	学 習 内 容	<p>近現代（現在の国家や社会の枠組みが形成され始める19世紀前後）の世界と日本の歴史を学びます。世界の歴史の中での日本の関わり方や、世界の歴史の動きが日本の歴史にどのような影響を及ぼしたのか、世界と日本の歴史の展開が現在の私たちにとってどのようにつながっているのか、などの観点から知識を身につけ、考察活動を通じて多様な見方・考え方を身につけていきます。</p> <p>講義・板書のほか、資料の読み取り活動や調べ学習なども行います。</p>					
	条 件	原則2年次で登録する必修修科目。					
	留 意 事 項	この「歴史総合」を履修しないと次年度以降に「世界史探究」「日本史探究」を登録できない。5年次以降で「日本史A」「世界史A」が未履修の者は、この科目を履修することで卒業要件を満たすこととなる。					
	必 要 な も の	教科書等					
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	単元ごとのテスト、授業への取り組み、課題や提出物などを総合的に判断します。					
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】歴史的事象に関する概念・出来事・人名などの知識を身につけて、地図や年表、史料などの読み解きを行うことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】歴史の見方・考え方を働かせ、資料等を活用しながら、現代社会の諸課題の解決を視野に入れた多面的・多角的な考察や表現ができる。</p> <p>【学びに向かう力】歴史的事象について関心をもち、意欲的に学ぶことができる。考察活動等において主体的にとりくむことができる。</p>					

【選択必修】公共		単位数	2	定員	30	教材費	なし
公民	学 習 内 容	多様な他者と広くつながる公共の空間である現代社会の特徴や課題について、政治や経済、宗教や哲学などについて幅広く学び、私たちが10年後に向けて生きる力となる知識や論理的思考力を身につける科目です。					
	条 件	原則2年次で登録する必修科目。「現代社会」が未履修の5・6年次も登録可能。					
	留 意 事 項	この「公共」を履修しないと次年度以降に「政治・経済」「倫理」を登録できない。					
	必 要 な も の	教科書					
	評価・評定の方法	単元ごとの考査、授業への取り組み、提出物などを総合的に判断する。					
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】現代の諸課題をとらえ考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 【思考力・判断力・表現力】現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や基本的原理を活用し、合意形成や社会参画を視野に考察したことを表現できる。 【学びに向かう力】国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。					
数学Ⅰ		単位数	3	定員	20	教材費	なし
数学	学 習 内 容	教科書を参考にして、学習を行う。 (1)数と式 (2)2次関数 (3)図形と計量 (4)集合と命題 (5)データの分析 * 初回授業時にクラス分けテストを実施し、習熟度別3クラスに分ける。来年度「数学B」「数学C」、今年度「数学A」を登録する生徒は発展クラスで授業を行う。適宜、中学校の内容も確認しながら進める。 * 一斉テストを実施する。					
	条 件	1年次生および2年次生以上の再登録者（「数学Ⅰ」未履修、または未修得）を対象とする。来年度「数学B」「数学C」、今年度「数学A」を受講する生徒は通年で発展クラスに所属する。					
	留 意 事 項	この「数学Ⅰ」の履修が、「数学Ⅱ」の登録条件となる。					
	必 要 な も の	ノート、タブレット					
	評価・評定の方法	ノートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・小テスト・単元テスト					
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思考力・判断力・表現力】 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を表現できる。 【学びに向かう力】 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。					
【選択必修】科学と人間生活		単位数	2	定員	24	教材費	なし
理科	学 習 内 容	①物質の科学 ②生命の科学 ③光や熱の科学 ④宇宙や地球の科学 上記の内容について、講義・実験・観察等を通じて科学が人間生活にどのように関わっているかや科学の基本的な概念や原理・原則、技能を学び、日常生活や社会との関連を図りながら科学的に探究することを目指す。					
	条 件	「生物基礎」を履修していないこと。「生物基礎」との同時登録はできない。					
	留 意 事 項	「科学と人間生活」を最初に履修した場合、翌年度以降に「生物基礎」「化学基礎」「物理基礎」いずれかの履修が必要となる。					
	必 要 な も の	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。					
	評価・評定の方法	振り返りテスト、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。					
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力】自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活に関連した観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究している。 【学びに向かう力】自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。					

【選択必修】生物基礎		単位数	2	定員	24	教材費	なし
理科	学習内容	①生物の特徴 ②遺伝子とそのはたらき ③ヒトの体の調節 ④生物の多様性と生態系 上記の内容について、講義・実験・観察等を通して生物学の基本的な概念や原理・原則、技能を学び、日常生活や社会との関連を図りながら科学的に探究することを目指す。					
	条件	「科学と人間生活」との同時登録はできない。					
	留意事項	「生物基礎」を理科の科目として最初に履修した場合、「科学と人間生活」は受講できない。次年度以降「化学基礎」と「物理基礎」の両方を履修する必要がある。					
	必要なもの	教科書、問題集、タブレット。そのほか教員が指示したもの。					
	評価・評定の方法	考査、提出物、授業態度、授業の振り返り等を総合して評価する。					
	観点別の評価	【知識・技能】 生物や生命現象についての基本的な概念や原理・原則などを理解している。また、観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力】 課題の発見や観察・実験などを通して、生物や生命現象について考察し、表現できる。 【学びに向かう力】 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。					
体育Ⅰ		単位数	2	定員	30	教材費	なし
保健体育	学習内容	「体育Ⅰ」は、高等学校で学ぶ初めての体育となるので、以下の視点で授業を展開していきます。 1) 様々な運動種目に触れ、基本技術を学び、各運動種目の持つ楽しさや面白さを味わっていくこと。 2) 自らの体力を高めたり、心身の状態を良好に保てたりできるような運動との関わり方や方法を学ぶこと。 3) 継続的に運動を楽しんでいくために、公正・協力・責任の態度を育てること。 ・球技、個人種目等の様々な種目を、1年間を通じてバランス良く学びます。 ・夏季の一定期間は水泳と陸上競技の種目選択、冬季の一定期間は持久走及び縄跳びをそれぞれ学習します。 ・授業でスポーツテストを実施します。					
	条件	1年次対象必修科目。 2年次以上の再登録者も登録すること。※再登録者も基本自部での登録					
	留意事項	なし					
	必要なもの	ジャージ上下・Tシャツ・体育館シューズ（原則本校指定）、ハーフパンツ、グラウンド用シューズ、夏季種目で水泳選択者は、競泳用の水着（スパッツタイプ可）・水泳帽・ゴーグル（任意）					
	評価・評定の方法	実技テスト、学習カード、授業観察などで評価					
	観点別の評価	【知識・技能】 運動の合理的、計画的な実践を通して、各種の運動特性に応じた知識・技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけている。 【思考力・判断力・表現力】 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題や運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【学びに向かう力】 授業に積極的に参加し、運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、共生などを理解し意欲的に取り組むとともに、運動に親しみ健康の保持増進と体力の向上目指し取り組んでいる。					
保健Ⅰ		単位数	1	定員	30	教材費	なし
保健体育	学習内容	個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるとともに、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための力を身につけます。 【「保健Ⅰ」での学習内容】 現代社会と健康 ア) 健康の考え方と成り立ち イ) 私たちの健康のすがた ウ) 生活習慣病の予防と回復 エ) がんの原因、予防、治療、回復 オ) 食事・運動・休養・睡眠と健康 カ) 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 キ) 精神疾患の特徴、予防、回復 ク) 健康に関する意思決定、行動選択、環境づくり など *上記の内容によっては実験や実習、課題学習を行います。					
	条件	1年次対象必修科目					
	留意事項	なし					
	必要なもの	教科書、学習ノート その他、実習・課題学習に必要な物品。					
	評価・評定の方法	学力テスト、学習カード、授業観察などで評価					
	観点別の評価	【知識・技能】 健康に対して、各課題の原因や成り立ち、予防策や改善方法、個人と社会との関連などを理解している。また、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力・判断力・表現力】 自他や社会の課題を発見し、分析比較するなどし、予防策を考えている。自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由など筋道を立てて説明している。 【学びに向かう力】 授業に積極的に参加し各課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。					

芸術	音楽Ⅰ		単位数	2	定員	23	教材費	なし
	学 習 内 容	音楽の幅広い活動を通して、音楽的感性を養うことを目的とします。次のような内容を中心に学習します。 〔表現〕・歌唱…発声の基本を身につけます。独唱及び合唱では、外国語の作品も幅広く取り上げます。 ・器楽…ギターの奏法を学習し、コードストロークによる弾き語りを行います。 〔鑑賞〕音源及び映像の鑑賞を通し、幅広い音楽観を身につけます。 〔その他〕楽譜を読む力を身に付けられるよう、音符の種類やリズムなど基礎的な知識を学び						
	条 件	「音楽Ⅰ」の履修が「音楽Ⅱ」を登録する条件。						
	留 意 事 項	2年次以上の枠は3名						
	必 要 な も の	教科書						
	評価・評定の方法	実技テスト、振り返りテスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題等						
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 【思考力・判断力・表現力】音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じたこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴いたりしている。 【学びに向かう力】主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。						
	書道Ⅰ		単位数	2	定員	20	教材費	¥3,000
	学 習 内 容	用具の手入れ方法等、基礎基本から学びます。 優れた古典作品の歴史的背景を学び、そうした作品を手本に臨書作品、創作作品に取り組みます。						
	条 件	なし						
	留 意 事 項	汚れても良い服。筆・墨液・紙は教材費で購入します。						
	必 要 な も の	教科書						
	評価・評定の方法	作品・ワークシート・授業観察・小テスト						
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】優れた古典作品に触れ、その制作の背景を学び、書体や作品の特長的筆法を理解し、臨書作品の制作に生かせる。 【思考力・判断力・表現力】紙のサイズに合った線の太さや字の大きさを理解し、バランスの取れた作品に仕上げることができる。書の良さ、美しさを感じ、意図に基づいた構想を表現できる。 【学びに向かう力】主体的に書の幅広い活動に取り組み、書の伝統文化を感じ、日常における調和のとれた手書き文字を表現できる。						
	美術Ⅰ		単位数	2	定員	20	教材費	¥3,000
学 習 内 容	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指します。次の内容を中心に学習します。 〔表現〕 絵画・彫刻…水彩画、水墨画、粘土造形 デザイン…色見本づくり、コラージュ等 〔鑑賞〕 生徒作品の発表・鑑賞、アーティスト・美術家等のDVD鑑賞							
条 件	「美術Ⅰ」の履修が「美術Ⅱ」を登録する条件です。							
留 意 事 項	なし							
必 要 な も の	教科書							
評価・評定の方法	授業中の取り組み状況・作品を下の三観点で評価する。							
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 【思考力・判断力・表現力】表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【学びに向かう力】主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。							

芸術	工芸 I	単位数	2	定員	20	教材費	¥3,500
	学 習 内 容	<p>工芸の幅広い創作活動を通して、造形的な見方考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指します。</p> <p>【令和6年度の学習内容例】 木彫のバターナイフ、籐籠編み、ろうけつ染め等</p>					
	条 件	「工芸 I」の履修が「工芸 II」を登録する条件です。					
	留 意 事 項	刃物を用います。やすりがけや電動のこぎりで高い音が発生します。					
	必 要 な も の	教科書					
	評価・評定の方法	作品、小テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題等					
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】素材について理解し、制作物を捉える造形的な視点について理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考えている。工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めている。</p> <p>【学びに向かう力】工芸や工芸の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創作活動に取り組もうとしている。</p>					
外国語（英語）	英語コミュニケーション I	単位数	3	定員	20	教材費	なし
	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> 英語の「聞く」「読む」「話す」「書く」のすべての分野で、基礎的な能力を身につけることをめざします。 積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を育成し、苦手意識を克服して英語で簡単な会話ができるようになることをめざします。 外国人指導員による授業も年間に何週か予定しています。 初回授業時にクラス分けテストを実施し、2クラス3展開の習熟度別授業を行います。 					
	条 件	必修科目。					
	留 意 事 項	この科目の履修が、「英語コミュニケーション II」の登録条件となります。（旧課程「コミュニケーション英語 I」の代替科目です。）					
	必 要 な も の	教科書、ワークブック、辞書、ノート					
	評価・評定の方法	各課ごとのふりかえりテスト、スピーキングテスト、授業への取り組み、小テスト、提出物などを総合的に判断する。					
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】多くの支援を活用すれば、英語の文章を読解することができ、基礎的な文法事項を理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。</p> <p>【学びに向かう力】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。</p>					
情報	情報 I	単位数	2	定員	15	教材費	なし
	学 習 内 容	<p>コンピュータの基本的な学習を行います。座学を中心に、実習を交えながら学習します。</p> <p>第1章 情報社会とわたしたち 第2章 コミュニケーションと情報デザイン 第3章 コンピュータとプログラミング 第4章 情報通信ネットワークとデータの活用</p>					
	条 件	2年次以上は、再登録講座を登録する。					
	留 意 事 項	1クラスを2講座に分けた授業で設定する。					
	必 要 な も の	教科書・副教材					
	評価・評定の方法	毎授業で振り返りテスト・授業内成果物・ノート提出・単元テストなど、総合的に評価					
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけ理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いて考察し、表現できる。</p> <p>【学びに向かう力】主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。</p>					

1年次必修科目

		産業社会と人間	単位数	2	定員	30	教材費	なし
総合・総合的な探究の時間	学 習 内 容	自分の生き方や仕事・職業・進路・社会とのかかわりなどを考え、学びます。また、数少ないクラス単位の授業です。クラスメイトのことを知り、人間関係を深めましょう。 〈学習内容〉①多くの人たちとの出会いを通じて、人間としてのあり方・生き方を学ぶ。②現在の社会の状況や変化を学び、進路選択の手がかりをつかむ。③社会の中で、自分をどのように生かし生きるかを考える。 講義のほかに、ものづくりなどの体験活動、様々な職業の方の講演会もあります。						
	条 件	1年次で登録する必修科目（卒業までに登録する必要がある科目）						
	留 意 事 項	2年次以上の未履修者で再登録を希望する場合は、社会科、工業科と相談のうえ登録すること。						
	必 要 な も の	なし						
	評 価 ・ 評 定 の 方 法	課題への取り組み、学習意欲、グループワークへの参加、ワークシートの提出						
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】与えられた課題に組み込み、授業・講演・映像の内容から必要な情報を読み取ることが出来ている。						
		【思考力・判断力・表現力】授業・講演・映像の内容をもとに、課題について考察し、表現できている。						
【学びに向かう力】授業やグループワークに主体的に参加し、意欲的に取り組んでいる。								

自由選択科目

【注意事項】

- 「対象年次」や「履修条件」が設定されている科目があります。これらを見落とすと履修違反となり、登録が取り消されます。

数学A		対象 年次	1~	単位数	2	定員	30	教材費	なし
学 習 内 容	主に教科書を使用した学習を進めていく。 (1) 場合の数と確率 (2) 図形の性質 (3) 数学と人間の活動 * 数え上げや確率、平面図形と空間図形、倍数や約数などを学習する。 それぞれの章で小学校や中学校で学んだことを少し発展させた内容を扱う。 * 上級学校進学に対応するので登録希望生徒は数学科へ必ず相談すること。 * 定期的に課題を課す。一斉テストの他、定期的に小テストを実施する。								
条 件	「数学I」を同年度登録する生徒は発展クラス(習熟度)に所属する。								
留 意 事 項	「数学I」を修得していることを望む。次年度以降に「数学B」を登録する場合、「数学A」を修得していることが望ましい。								
必 要 な も の	ノート、タブレット								
評価・評定の方法	ノートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・小テスト・単元テスト								
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。								
	【思考力・判断力・表現力】 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を表現できる。								
	【学びに向かう力】 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。								
やさしい数楽		対象 年次	1	単位数	2	定員	30	教材費	なし
学 習 内 容	・「数学I」の内容と連動し、基礎クラスの内容をやさしく学ぶ。 ・算数、数学が苦手な、以下の計算で1つでもわからない計算がある人を対象とする。 $-4+8=$ 、 $3+(-6)=$ 、 $-2-9=$ 、 $(-4)\times 7=$ 、 $4\div(-2)=$ ・毎回の授業で数学パズルを学習し、楽しみながら四則演習や集中力を養う。 * 一斉テストを実施する。								
条 件	1年次限定。								
留 意 事 項	小中学校での算数・数学がほとんどわからない生徒は、受講することが望ましい。 苦手な生徒のみ受講をすすめる。「数学A」との同時登録は特別な事情がない限り控える。								
必 要 な も の	ワークシート(授業で配布)、「数学I」の教科書、タブレット								
評価・評定の方法	ワークシートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・単元テスト								
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。								
	【思考力・判断力・表現力】 数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を表現できる。								
	【学びに向かう力】 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。								
生活の中の数学		対象 年次	1~	単位数	2	定員	30	教材費	なし
学 習 内 容	数学に親しむことができるような題材を扱い、ワークシートによる学習を進めていく。 ペンシルパズル(賢賢、魔方陣、数独、四角に切れ、ブリッジパズル、ビルディングパズル)、ポリオミノ、古代の記数法、迷路問題、多面体作成(サッカーボール、正多面体、星形60面体)、折り紙で考える数学、イラストロジック、電卓の使い方、クリフトカードゲームなど。 * 一斉テストを実施する。								
条 件	なし								
留 意 事 項	工作課題が授業内で完成しない場合、宿題となる。								
必 要 な も の	筆記用具								
評価・評定の方法	ワークシートや振り返りシートの記述内容・課題の取り組み状況・工作課題・単元テスト								
観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。								
	【思考力・判断力・表現力】 数学を取り入れた工作や折り紙での物作りなどを通して、事象を論理的に考察し表現できる。								
	【学びに向かう力】 身の回りの現象を数学的な観点で捉え、その不思議や数学の美しさに触れようとしている。								

数学

保健体育	ダンス	対象 年次	1～	単位数	2	定員	18	教材費	なし	
	学 習 内 容	<p>・身体表現の基本である「自分自身を解放」することから、身体の使い方や動き方、作品の創作方法を学びます。初心者でもやる気さえあれば取り組むことは可能です。</p> <p>・様々なリズムや表現のダンスを経験し、ダンスの特性を理解します。また、創作作品に取り組むことや発表することを体験しながら、作品の構成の仕方や創作の手順、作品の効果などを学びます。</p> <p>・最終目標として、個人やグループで課題を設定し、互いに協力しあって創作活動に取り組み、授業の成果を発表します。グループごとの活動が主になります。</p>								
	条 件	なし								
	留 意 事 項	人前で身体表現することに抵抗がない者を対象とする。学習成果発表会で発表する。								
	必 要 な も の	体育着・体育館シューズ（原則として本校指定） 創作活動に必要な物品が出た場合、個人負担								
	評価・評定の方法	実技テスト、学習カード、授業観察などで評価								
観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】運動の合理的、計画的な実践を通して、各種の運動特性に応じた知識・技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題や運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>【学びに向かう力】授業に積極的に参加し、運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、共生などを理解し意欲的に取り組むとともに、運動に親しみ健康の保持増進と体力の向上を目指し取り組んでいる。</p>									
芸術	ニュースポーツ	対象 年次	1～	単位数	2	定員	30	教材費	なし	
	学 習 内 容	<p>「ニュースポーツ」とは、最近になって日本に紹介されたスポーツや日本で新しく開発されたスポーツを学びます。この授業を通して、様々なニュースポーツの種目を体験し、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を養います。</p> <p>【主な実技内容】 アルティメット・水泳・ターゲットバードゴルフ・ユニホック・ソフトバレーボール・インディアカ</p>								
	条 件	なし								
	留 意 事 項	他年次と協力してスポーツを楽しむことができる者を対象とする。夏期の一定期間はプールで水泳に関連した授業を実施する。								
	必 要 な も の	ジャージ上下・Tシャツ・体育館シューズ（原則本校指定）、ハーフパンツ、グラウンド用シューズ競泳用の水着（スパッツタイプ可）・水泳帽・ゴーグル（任意）								
	評価・評定の方法	実技テスト、学習カード、授業観察などで評価								
観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】運動の合理的、計画的な実践を通して、各種の運動特性に応じた知識・技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題や運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>【学びに向かう力】授業に積極的に参加し、運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、共生などを理解し意欲的に取り組むとともに、運動に親しみ健康の保持増進と体力の向上を目指し取り組んでいる。</p>									
芸術	歌唱	対象 年次	1～	単位数	2	定員	20	教材費	なし	
	学 習 内 容	<p>歌唱では、発声の基礎を身につけ、幅広い歌唱活動を行います。</p> <p>【大きな声で歌う、人前で1人で歌う等の活動に抵抗なく取り組めることが必要です。】</p> <p>①発声練習を行い、歌うための体の使い方を知覚します。</p> <p>②独唱、斉唱、重唱、合唱など、さまざまな形態で歌います。</p> <p>③コンコーネ、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲等、クラシック音楽を中心に様々な曲を学習します。</p> <p>④関連する曲等を鑑賞します。</p> <p>※J-POPや流行りの曲は扱いません。 ※実技テストは1人ずつ皆の前で歌います。</p>								
	条 件	「声楽」修得者は登録不可。								
	留 意 事 項									
	必 要 な も の									
	評価・評定の方法	実技テスト、振り返りテスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題等								
観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱で表現している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの動きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</p> <p>【学びに向かう力】音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>									

芸術	音楽演習		対象年次	1～	単位数	2	定員	20	教材費	なし
	学習内容	音楽活動を行う際、必要となる基本的な力を身につける授業です。次のような内容を中心に学習します。前半1時間は講義で、後半1時間はキーボードによる実習を行います。 ①リズム打ち ②読譜（楽譜を読めるようにする）③音楽理論（音名、音階、音程、リズム打ち、コード等） ④キーボードを使用した基本的奏法の学習								
	条件	「ソルフェージュ」修得者は登録不可。								
	留意事項									
	必要なもの	副教材（購入）								
	評価・評定の方法	振り返りテスト、実技テスト、授業に向かう姿勢・態度の観察、プリント課題等								
	観点別の評価	【知識・技能】音楽の基本的な理論について理解している。キーボードの簡単な奏法を身に付けている。								
		【思考力・判断力・表現力】音楽理論の知識をもとにして考えようとしている。リズム打ちや音取りに応用しようとしている。音の長さやリズムを理解して表現しようとしている。								
		【学びに向かう力】わからないことは質問する等して解決しようとしている。キーボードについては根気よく練習を重ねようとしている。								
	デザイン基礎		対象年次	1～	単位数	2	定員	24	教材費	4000
学習内容	色と形を使い、様々な制作をすることで、モノをつくる感性や色彩感覚、発想力、考える力といったデザイン分野の基礎を学びます。 [表現] ・文字デザイン（レタリング） ・色彩学習（配色ワーク） ・ッシュステンド（構図と構成） ・文様デザイン（ステンシル） [鑑賞] ・生徒作品の発表、鑑賞 ・映像鑑賞（様々なクリエイターのDVD等）									
条件	なし									
留意事項	「デザイン基礎」を修得してから、次年度以降「発展デザイン」を学ぶことが望ましい。（1年次定員12名、2年次以上定員12名）									
必要なもの	筆記用具									
評価・評定の方法	作品、小テスト、プリント課題、授業に向かう姿勢・態度の観察、振り返り等									
観点別の評価	【知識・技能】表現の目的や意図に応じて、材料や用具の特性を理解し、制作の手順を考え、構想のイメージを的確に表現出来ている。									
	【思考力・判断力・表現力】デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることが表現できている。									
	【学びに向かう力】飾る、伝える、使う等のデザインの目的や条件、美しさを考え、主題を生成して取り組もうとしている。									
外国語（英語）	英語入門		対象年次	1	単位数	2	定員	30	教材費	なし
	学習内容	・アルファベットから始めて、英語の表現・語彙・文法の基本を学びます。 ・授業は、講義形式だけでなく、体験的な形式も計画しています。 ・英語レベルでは、実用英語検定4級程度をめざします。 ・必修科目「英語コミュニケーションⅠ」を補う役目も果たします。 ・基礎的な内容しか扱いません。苦手意識をもつ生徒のみ受講してください。								
	条件	1年次限定								
	留意事項	地道にコツコツ取り組む姿勢で臨むこと								
	必要なもの	問題集、辞書、ノート								
	評価・評定の方法	各課ごとのふりかえりテスト、授業への取り組み、小テスト、提出物などを総合的に判断する。								
	観点別の評価	【知識・技能】英語の文章を読解することができ、基礎的な文法事項を理解している。								
【思考力・判断力・表現力】内容について深く考える力があり、正確な情報を文章や会話で伝えることができる。										
【学びに向かう力】積極的に授業に参加し、主体的に学ぼうとしている。										

情報の基礎		対象 年次	1～	単位数	2	定員	25	教材費	なし	
情報	学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字入力練習 ・タッチメソッド練習 ・文書作成ソフト（簡単な文書入力、ビジネス文書入力） ・表計算ソフト（関数の基礎から発展、実務作業） ・プレゼンテーションソフト（簡単なプレゼンテーション作成、発表） ・各種アプリケーション総合実習（アプリの連携、複合作業） 								
	条 件	コンピュータが苦手、電源の入れ方、ローマ字の打ち方から始めたい人が対象								
	留 意 事 項	基礎練習の反復であるため、同じ作業の繰り返しが苦手な人には向かない。実習中心の科目である。								
	必 要 な も の	副教材								
	評価・評定の方法	毎授業で振り返りテスト・授業内成果物・ノート提出・単元テストなど、総合的に評価								
	観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】コンピュータの基本操作、各アプリケーションの活用について技能を身につけ理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いて考察し、表現できる。</p> <p>【学びに向かう力】主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。</p>								
工業	工業実習A		対象 年次	1～	単位数	2	定員	20	教材費	なし
	学 習 内 容	製図・木工・回路について、1パート8～10週程度のローテーションをして学習します。 <学習内容> 製図：（1）製図の基礎 （2）製作図の書き方について （3）CADの基本を学びます 木工：（1）木材の性質 （2）木工工具の基本的な使い方 （3）木材の加工方法を学習し、木工作品を作る 回路：（1）電気回路の基礎 （2）各種電子工作 （3）電気工事の基礎								
	条 件	なし								
	留 意 事 項	製図・木工・回路のすべてを学びます。好きな内容を選んだ学習はできません。								
	必 要 な も の	実習服（上着・ズボン）・帽子								
	評価・評定の方法	授業態度（安全管理を含む）・作品・レポート等を総合的に判断する。								
観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】 図面や配線図の図記号や書きかたについて理解している。作品をどのような工具を使い、どのような手順で加工をすればよいか理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 どのような手順で作業を行えばよいか考え、安全に作業をするためにはどんな点に留意が必要か判断し、レポートにおいて、自分が考えたり感じたことについて考察し、表現できる。</p> <p>【学びに向かう力】 授業へ積極的に参加し、安全に作業を行おうとしている。ものを大切に扱おうとしている。整理整頓や後片付けを大切にしようとしている。材料をムダ使いしないなど環境に配慮しようとしている。</p>									
工業	工業実習B		対象 年次	1～	単位数	2	定員	20	教材費	なし
	学 習 内 容	フライス・溶接・アプリケーションについて、1パート8～10週程度のローテーションをして学習します。 <学習内容> フライス：（1）フライス盤の基本操作 （2）六面体の加工 溶 接：（1）アーク溶接の基本操作 アプリ：（1）MicrosoftOfficeの基礎 （2）MicrosoftOfficeの応用 （3）マインドストーム など								
	条 件	なし								
	留 意 事 項	高速回転体、電気や熱を扱う危険な作業を伴う。欠席の多い生徒の受講には向かない。フライス・溶接・アプリのすべてを学びます。好きな内容を選んだ学習はできません。								
	必 要 な も の	実習服（上着・ズボン）・帽子								
	評価・評定の方法	授業態度（安全管理を含む）・作品・レポート等を総合的に判断する。								
観 点 別 の 評 価	<p>【知識・技能】 図面の図記号やコンピュータの基本操作について理解している。作品をどのような工具を使い、どのような手順で加工をすればよいか、アプリケーションをどのように操作すればよいか理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 どのような手順で作業を行えばよいか考え、安全に作業をするためにはどんな点に留意が必要か判断し、レポートにおいて、自分が考えたり感じたことについて考察し、表現できる。</p> <p>【学びに向かう力】 授業へ積極的に参加し、安全に作業を行おうとしている。ものを大切に扱おうとしている。整理整頓や後片付けを大切にしようとしている。材料をムダ使いしないなど環境に配慮しようとしている。</p>									

自由選択科目

工業	工業実習D		対象 年次	1~	単位数	2	定員	10	教材費	なし	
	学 習 内 容	自動車・旋盤について、1パート12~16週程度のローテーションをして学習します。 <学習内容> 自動車：(1) 自動車の基礎知識 (2) ロビンエンジンの分解・組立実習 旋 盤：(1) 豆ジャッキの作成 ※工業実習Cよりも高度な内容を扱います。									
	条 件	なし									
	留 意 事 項	狭い空間での作業や高速回転体、重量のある物を扱い危険を伴う。欠席の多い生徒の受講には向かない。自動車・旋盤の両方を学びます。好きな内容を選んだ学習はできません。									
	必 要 な も の	実習服（上着・ズボン）・帽子									
	評価・評定の方法	授業態度（安全管理を含む）・作品・レポート等を総合的に判断する。									
	観 点 別 の 評 価	【知識・技能】 自動車整備の方法や旋盤の基本操作について理解している。作品をどのような工具を使い、どのような手順で加工をすればよいか、旋盤をどのように操作すればよいか理解している。 【思考力・判断力・表現力】 どのような手順で作業を行えばよいか考え、安全に作業をするためにはどんな点に留意が必要か判断し、レポートにおいて、自分が考えたり感じたことについて考察し、表現できる。 【学びに向かう力】 授業へ積極的に参加し、安全に作業を行おうとしている。ものを大切に扱おうとしている。整理整頓や後片付けを大切にしようとしている。材料をムダ使いしないなど環境に配慮しようとしている。									